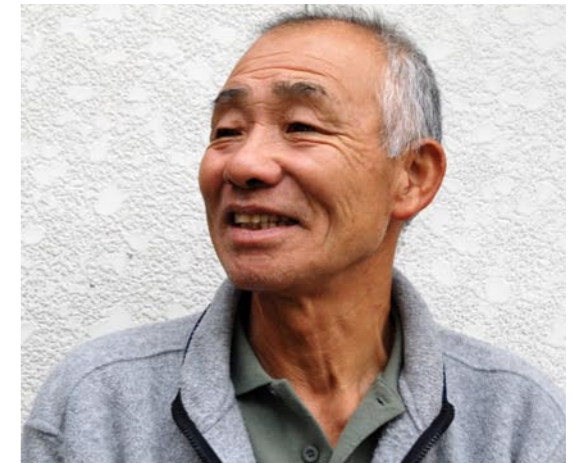


きらり

おばま 人

海の名人
上 幸一さん(犬熊・69歳)



農林水産省・文部科学省主催の「第10回聞き書き甲子園『海・川の名人』」で、全国20人のうちの1人選ばれた漁業を営む上 幸一さんです。「聞き書き甲子園」とは、全国の高校生が、造林手、炭焼き職人、木地師、漁師、海女など、自然とかわるさまさまな職種の名人を訪ね、知恵や技術、人生そのものを「聞き書き(＝話し手の言葉を書き録し、一字一句すべてを書き起こして、文章にまとめる)」し、名人の持つ知恵や技、その生きざまやものの考え方を学ぶ活動です。「7月に、漁業協同組合の推薦を受け、応募したんやわ。例年、地元の小

漁業体験活動で若者の魚離れを解消したい

学生対象に、ワカメ漁の体験とか地引き網体験をしようやけど、そういった取り組みが評価されたんやろうかなあ」と、本人も、選ばれたことには半信半疑のようです。中学校卒業と同時に漁師としての道を歩み始めた上 幸一さん。3歳の時に父親が戦死し、幼少の頃から、毎日のように祖父と漁に出かけていたといいます。「ワカメ漁や地引き網を子どもたちに教えとると、孫じいさんから教わってた子どものころを思い出すんやわ。自分が教わったように、今の子どもに自分の知恵や技術を伝える、そうやって地域に貢献できてることをいつも実感しとんやわ」と笑顔で話します。そんな上 幸一さんも、若者の魚離れには懸念を隠せないようです。「最近では、食生活が欧米化して、魚より肉を好む人が増えとるし、生の魚を見る機会もめっきり減ったしな。若者の魚離れを解消するためにも、これからは漁業体験活動に力を入れていかんとあ」と話します。10月末に神奈川県から高校生が「聞き書き」に訪れ、来年の3月に、その内容が公表されるそうです。上 幸一さんの漁業体験を通じた地域貢献活動が、全国に知れ渡り、漁業に関心を持つ人が少しでも増えることを願います。

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人(グループも歓迎)」を紹介してください。
市民協働課 広報・広聴グループ ☎53・1111 内線373

協働のまちづくり情報BOX (vol. 3)

新保区で「竹マルチ栽培」を実施！

「サルからサツマイモを守れ」

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線372

今回は、新保区の集落営農組織「新保稲作生産組合」が、市の「みんなで減らそう鳥獣害モデル事業」の一環で取り組んだ「竹マルチ栽培」について紹介します。この取り組みは、「地域の農産物は地域で守ろう」という強い思いの下、地域の農業者が、行政と一体となって取り組んだ協働の事例です。

「新保稲作生産組合」は平成14年に発足。現在、37人の組合員が所属しています。稲作を主体に、ナスやニンジン、ダイコンなどを生産していますが、長年、鳥獣の被害に悩まされてきました。「竹マルチ栽培」は、サツマイモの苗を植えた畝に竹を敷き詰めてひもで固定し、サルなどが茎やつるを引っ張っても地中のサツマ

イモは竹に引っ掛かって残る仕組みになっています。6月に県・市の労務提供を受けながら、組合員と協力して、新保区の畑約150平方メートルに計150本の苗を植えました。10月に収穫を終え、収穫したサツマイモは宮川小学校の給食で利用されています。

※「竹マルチ栽培」に関するお問い合わせは農林水産課 ☎内線286までお願いします



山柳

若狭津川柳舎

迂回してあなたを許す事ができ
小浜飛鳥 安斎寿賀江
爺さまが主役いちばん元気です
四谷町 佐古しげの
幸せの少し隣でゆめを見る
大湊 森松 ひろ

短歌

口名田短歌会

仲秋の皓皓と照る名月は
西相生 岡 正實
地球の惨事を知らぬが如し
命 勇るゆとりなく刈る
上中井 古谷 智子
ただ一人遠回りして土手ゆけば
秋陽を背にアキアカネ飛ぶ
上中井 近者 綾子

俳句

小浜市俳句作家協会

短日や回転寿司の止めどなく
山手二丁目 井上ひさの
檜皮切る二尺五寸の冬日和
小浜鹿島 齋藤 好夫
舟の名を掲げし小屋に牡蠣を剥く
小浜神田 島田 玲子

広告

広告

広告

広告

広告

広告